



For the better life
and living of local people
～Gentleness and warmth
in the mind and body～

第33回職業リハビリテーション 研究・実践発表会

～統合失調症で退職後、5年の空白期間に
就労支援を組み合わせ活用し再就職したケー
スについて～

医療法人メディカルクラスタ

福祉事業部長 兼 たまフレ！施設長 黒木順平



たまふれあいグループ
Tama Fureai Group

1-1 たまフレ！とは

障がい者就労支援たまフレ！

- 神奈川県川崎市多摩区に所在する、多機能型の就労支援施設
 - 最寄り駅は
 - JR・小田急線登戸から徒歩7分
 - 小田急線向ヶ丘遊園駅からは徒歩5分
- 運営：医療法人メディカルクラスタ



1-2 たまフレ！とは

サービス内容

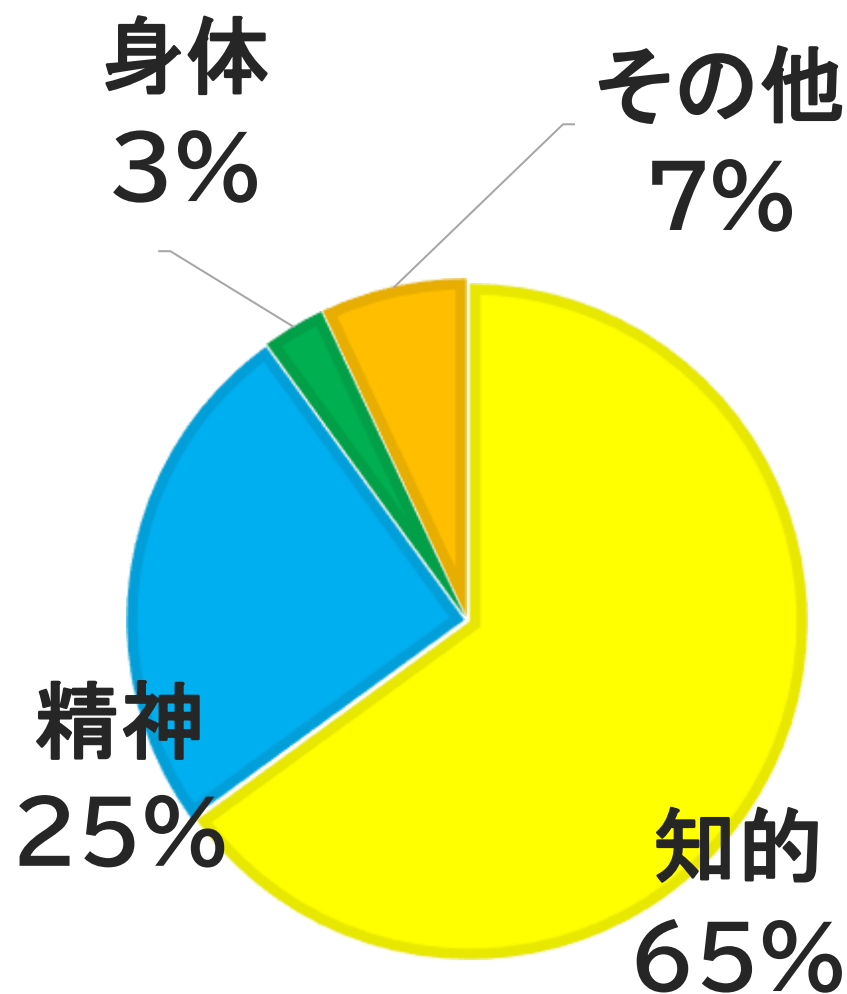
- ・ 就労移行支援
- ・ 自立訓練(生活訓練)
- ・ 就労継続支援B型
- ・ 就労定着支援
- ・ 計画相談支援



1-3 たまフレ！とは

- 利用者

- 知的障が7割
- 精神障が2.5割
- 身体障がい者
- 70代の方



1-4 たまフレ！とは

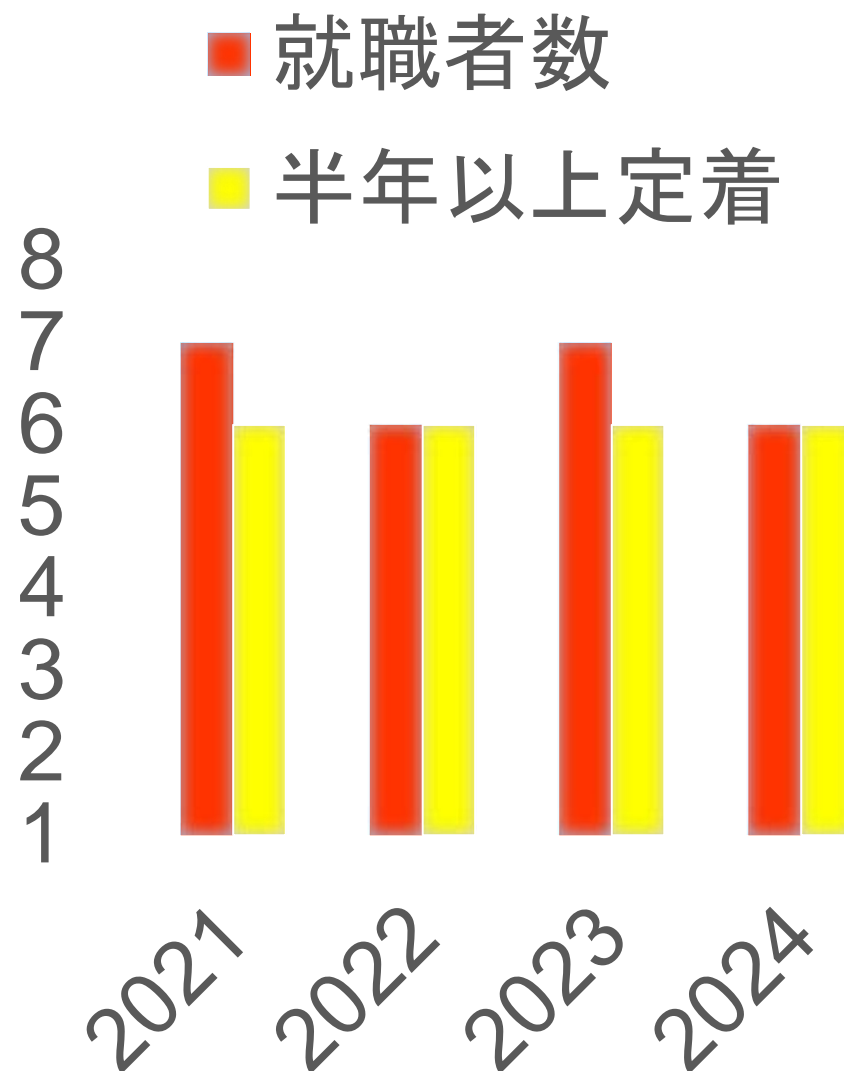
- 作業

- 軽作業中心

- 就職

- 毎年6、7名が就職

- 半年以上の定着率は9割を超えている



2-1 ケース概要～基本情報～

- Aさん

- 川崎市内に住む30代前半の男性

- »両親との3人暮らし、父は会社員、母は専業主婦

- »家庭の経済状況は比較的安定、家族仲は良好

2-2 ケース概要～基本情報～

- 診断：統合失調症
 - 陽性症状：幻聴（「お前はダメな人間だ」「周りに迷惑をかけている」等）→服薬により軽減
 - 陰性症状が顕著：生活全般への意欲が著しく低下し、日常生活が困難な状態
- 現在
 - 定期通院を継続しながら、地元の企業Dの障がい者雇用枠にて社内SEとして再就職

3 生育歴と進路

- 小・中学校は公立
 - 成績優秀かつ友人関係にも恵まれた一般的な少年期
 - 心身ともに健康
- 高校・大学
 - 普通高校進学
 - 東京都内の私立大学Bに進学。順調。
- 就職後
 - 就職活動には多少苦戦したものの、IT系企業へ

4-1 ITエンジニアの落とし穴～

- ITエンジニアへ
 - 専門性が高く将来性のある職業
 - プログラミング言語を独学で習得
- 現実
 - 客先常駐：小規模プロジェクトに配属
 - 慢性的な人手不足と納期遅延で過重労働が常態化
 - 指導役の上司は高圧的で業務説明も不十分

4-2 ITエンジニアの落とし穴～

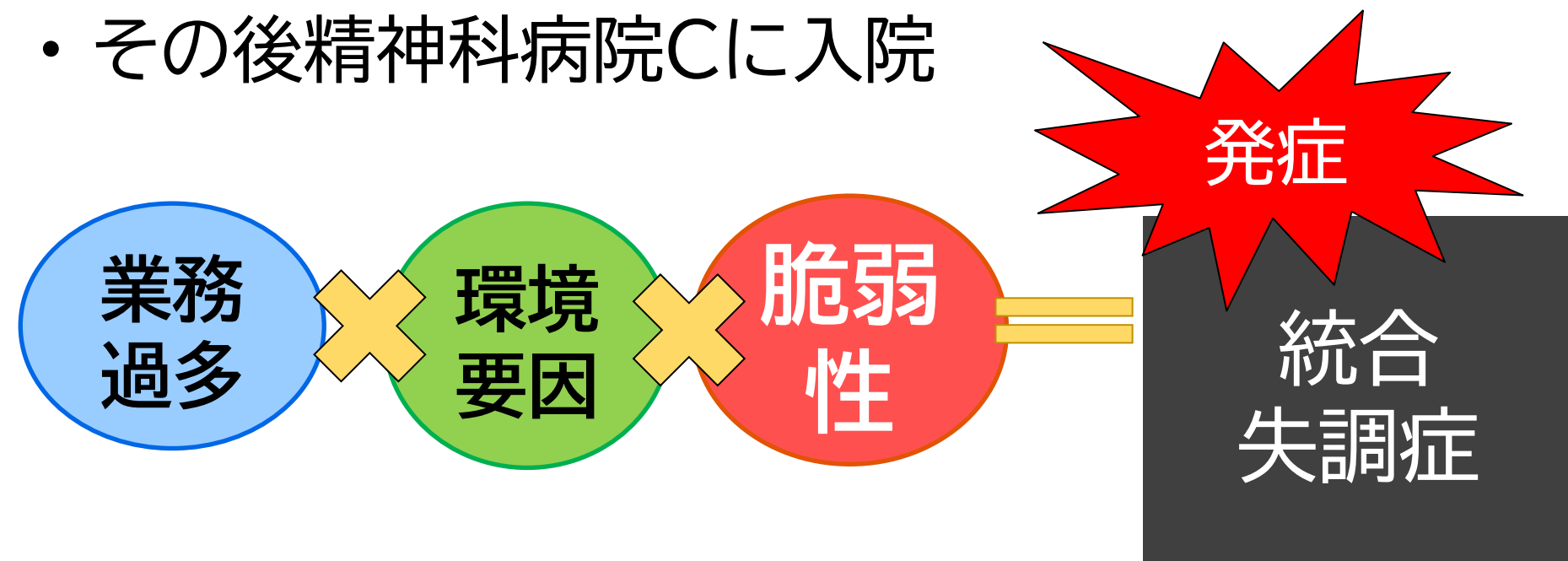
- Aさんの様子
 - 謙虚で責任感が強く、懸命に業務に取り組む
 - 上司からの抽象的指示と報告・相談のタイミングが取れない
 - 努力して成果を出しても否定される理不尽な状況が続く

5-1 忍び寄る病魔

- 慢性的ストレスと睡眠不足から疲労が蓄積し集中力や判断力が低下
- ある時期から「お前はダメな人間だ」「周りに迷惑をかけている」などの声が頭に聞こえた
- 気分の落ち込みが激しくなり朝起きられず出勤困難に

5-2 忍び寄る病魔

- 無力感と無気力感に襲われ医師の診断で3か月の休職
- その後精神科病院Cに入院



6 入院と治療

- 精神科病院C入院中、薬物療法で幻聴などの陽性症状は改善
- 「社会に戻る」というプレッシャーから自信を失い、外出もままならない日々が続いた
- 職場復帰を模索したが、主治医と家族との相談の結果、退職を決断
- 入院から半年後、自宅に戻った

7 社会復帰への一歩 リハビリテーション

- 葛藤：自宅療養中は両親の期待を感じつつも、負担に思うこともあった。
- 参加：C病院のデイケア
 »書道や茶道、陶芸などの活動→徐々に
 気力を取り戻す
- 次のステップ：ものづくりの楽しさ、プログラミングへの情熱や創造性→社会復帰訓練として
 限界

8 たまフレ！ との出会い～訓練の日々～

- デイケアの紹介→「たまフレ！」
 - B型：清掃や軽作業など、就労準備が整ったら→就労移行を利用する
 - 利用者同士のやりとりで報告・相談力を高め、スタッフから高評価
- 生活パターン
 - デイケア週2日、B型週3日を利用→生活リズムと自信の醸成
 - しかし陰性症状は安定せず
 - 通院・服薬を継続し5年が経過

9-1 伴走型の就職活動

- 5年経過

- 本人・家族・支援者とも再就職に触れなくなり、淡々とした生活が続く
- 新任施設長は職歴やスキルに注目
 - » 年単位の就労経験
 - » B大学での実績能力
- 福祉事業者リサーチを課題に



強みを
再アセ
スメント

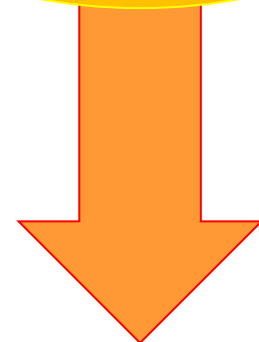
9-2 伴走型の就職活動

- マーケティング的な課題
 - 要件定義のセンス、主体的な相談
 - →仕事の感覚を取り戻す
- 報告・相談を重ねる中で精度の高いリストを作成
- PCスキルと即戦力性
 - これを根拠に就労移行スタッフとともに応募準備を進める

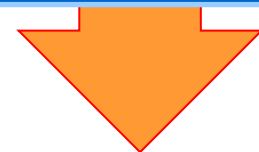
10-1 障がい者枠での「お試し就労」

- Aさんの再就職意欲は高まる
 - 精神保健福祉手帳を取得
→障がい者枠での就労を目指す
 - 合理的配慮
 - »報告・相談時間の確保
 - »コンプライアンス安定した環境

自己理解
の推進

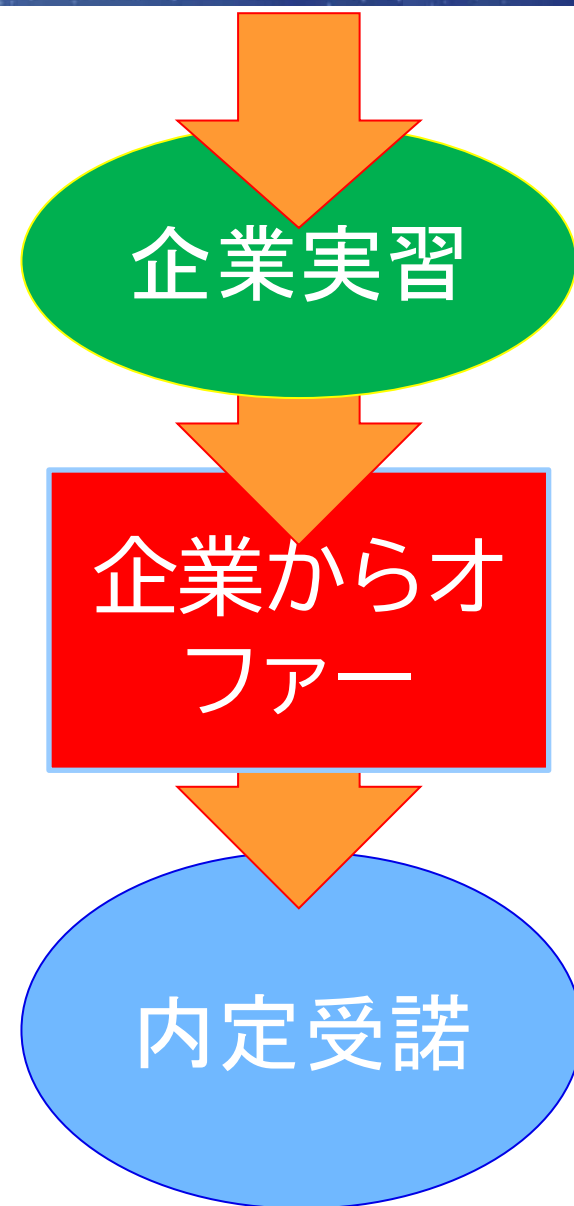


必要な
合理的配慮
の検討



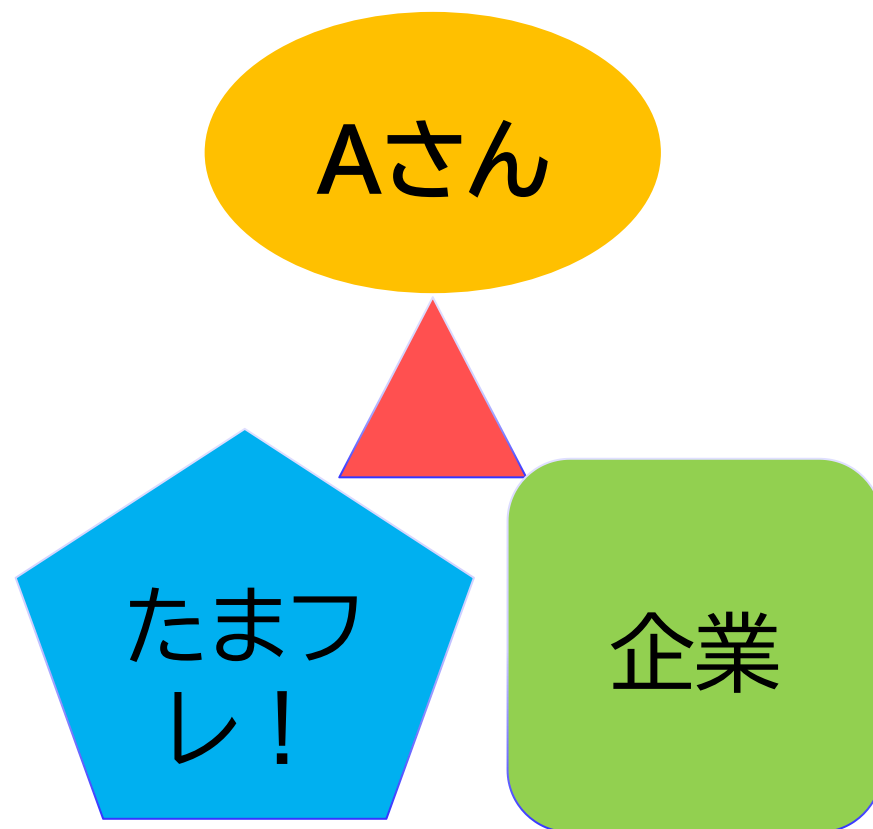
10-2 障がい者枠での「お試し就労」

- お試し就労で高評価を得て1か月で内定を獲得
 - 休憩を取りつつ働ける
 - 上司との報連相も円滑
 - 就労移行による定着支援を受けながら
 - 短時間から始め、正社員を目指すキャリアプランも



11-1 定着支援

- 上司とは良好な関係
- 社内システム構築やデータ入力業務に従事
- 上司から具体的なアドバイスがあり
- 移行支援スタッフもこまめに連絡を取り不安解消



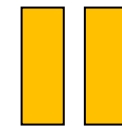
11-2 定着支援

- ・ 報告・相談は「より良い成果を残すため」
- ・ 細やかな気配りができるAさんを上司は頼りにしている
- ・ 定期通院時には主治医に就労状況を報告し、継続を後押ししてもらっている。
- ・ フルタイムや正社員を目指す計画である

ストレング
スモデル



環境
調整



安定就労

あしがき

- コンプライアンス重視や組織ガバナンスを強化する企業は業績向上と離職率低下を実現
- そのような職場を見極め、障がいに応じた対策と適切な治療、周囲の支援を組み合わせることで本人の力が発揮される
- 支援者には根拠に基づく後押しと環境整備能力が求められる

→本ケースではチームとして良好に機能した